

令和6年度事業報告書		事業 所名	特養 しおかぜ	作成者	草野 裕子	作成日	R6.3.31	
目 標	本年テーマ	(計画) 基本に立ち返り、利用者様と向き合う						
		(評価) 物事を検討するときには、利用者様にとってどうか？という視点が持てるようになってきた。						
基 本 処 遇 及 び 運 営	■令和6年度処遇及び運営方針に対しての評価							
	(計画)①ユニットケアの目的を理解し、共通のゴールを持つ							
	②介護技術の基本を学ぶ(時代に即した、今の介護技術を知る)							
	③接遇・マナーの基本を再認識する							
	(評価)							
	①ユニットリーダー研修を全リーダー参加で行い、ユニットケアとは、これまでの取組、今後目指すもの、自分達で作る24時間シート の作成実施。研修を通してリーダー間のユニットケア、個別ケアへの意識統一は図れた。どう活用するかは今後の課題。							
	②介護技術については、今ある福祉用具の活用、ノーリフトケアへの取組をリーダー研修内での実体験、施設見学研修、外部 研修参加を通し、リーダー間では必要性を理解し、簡易版シートの作成、使用を開始した。移乗機器の導入が今後の課題。							
	③接遇面は、セルフチェックで自己改善を促すチェックリストの作成、実施を行った。自分で改善できた職員もいるが、気づけ ない、自分では改善ができない職員もあり。上長チェックも取り入れ、改善できるよう修正。個人差あり、全体の改善には至らなかった。							
	研 修 ・ セ ミ ナ ー	■職員研修計画と実績						
			研修 名称	参加実績	研修 名称	参加実績		
		ユニットリーダー研修	槇尾晴樹	リスクマネジメント研修基礎編	三宅沙季・小野愛香			
		認知症介護基礎研修	桶野奈々華	リスクマネジメント研修応用編	桶野和美・串田智			
		認知症介護実践研修	池井毅・前田樹那	介護保険制度の行方	北野富美代・藤村枝穂			
		看取り研修	福田千代子・桶野和美・藤村枝穂	食に関わる職員のためのユニットケア研修	有助夏実・川崎萌子			
		ノーリフティング研修	串田智・木下侑里	看護職員のためのユニットケア研修	三原恵美子・大賀さやか			
		施設見学研修	ユニットリーダー12名	食えること・生きること	安居利江・浅野円香・ 有助夏実・藤村枝穂			
今年度は、ユニットケア研修の看護・栄養版を受講。リーダーと同じ内容の研修を受講することで、多職種間での 認識統一に繋がる。またノーリフトの研修も複数受講(上記以外にもあり)より多くの職員が学ぶことにより、必要 性を理解できた。外部研修報告書には、各受講者良い学びを得たとの記載があるも他者への伝達ができていな いこともある。委員会の内部研修で活用している場面もあるが、受講者自身の伝える努力と施設としてどう活か していくかが課題である。								
会 議 ・ 委 員 会 ・ 内 部 研 修	■会議・委員会計画実績・効果							
		会議委員会名	実績・効果	会議委員会名	実績・効果			
		特養事業部会議	月1回開催。各職種間の情報共有に加 え、問題点、課題の検討も実施できる ようになった	看取り/褥瘡予防委員会	年6回開催。看取りフローチャートの更 新、振り返りカンファの伝達方法の検 討、褥瘡予防の背抜き等実施。			
		チーフ会議	月1回開催。施設全体の検討、各チー フからの問題提起もあり。方向性の統 一につながった	身体拘束・虐待防止委員会	年6回開催。虐待案件あり、発生時の 検証、対応に関する検証を実施。身体 拘束は主に声掛けを検討。			
		フロア会議	月1回開催。情報共有が主であった が、フロア内での問題について検討機 会も増えてきた	認知症ケア委員会	年6回開催。認知症の基礎知識や種 類、種類別対応をオンライン研修で学 び、内部研修を実施。			
		相談課会議	月1回開催。情報共有が主になってい た。営業や稼働率に対する具体的行 動の検討ができていなかった。	感染症対策委員会	年6回開催。新嘔吐処理キットの使用 方法の周知、コロナ5類後の対応検討 と訓練、研修を実施。			
		看護課会議	月1回開催。職員からの議題があがら ず、報告が主。自ら発信、課題を検討 できる場にしていく必要がある。	事故予防委員会	年6回開催。市への報告書作成マニ ュアルの更新、頻度の高い事故の検証を 実施。			
		栄養課会議	月1回、テイド津井、テイ城山の相談 員と合同で開催。デイ間の交流をメイ ンに活動。合同大鍋会を実施。	全体行事委員会	毎月開催。担当制とし、大枠は全体 で、詳細は担当者で検討、計画書の作 成を実施。			
		給食会議	月1回開催。異物混入が続いたことも あったが協議を重ね減少。新たな実演 も実施していた	バス旅行委員会	年5回開催。場所決定後は、担当者 を決め、各担当で準備を実施。			
				安全衛生委員会	毎月法人全体での開催。腰痛問診や ストレスチェック、ヨガ教室、栄養教室 等を実施。			

防 災 ・ 災 害	■災害訓練計画・実績				
		訓練予定月	実施月	訓 練 目 的	訓練評価
		9月	9月	夜間想定 火災訓練	一人でも多くの職員参加を考慮し、今年度は火災発生をE勤帯に設定した。宿直者の事務所警報盤の操作、介護職員の放送は不慣れな部分もあり、手間取っていた。利用者様の避難は行えていた。
		3月	3月	日中想定 災害・火災訓練	参加職員、利用者様共に前年度より増やして実施。開催発生後、警報盤の見方が分からず、火災発生場所の特定に時間がかかった。避難開始後は、お互いに確認しつつスムーズに行っていた。
行 事 ・ イ ベ ン ト	■月別行事(下段)・内部研修報告(上段)				
	月 度	行事は、全体行事のみ記載 その他、ユニット単位での行事は随時開催			
	4 月	ユニットリーダー研修(24日)			
	5 月	法令遵守(21日) 事故予防委員研修:危険予知(27日)			
		こども園交流会(10日)			
	6 月	感染症委員研修:食中毒・嘔吐処理キット(17日)			
		バイキング(21日)			
	7 月	認知症委員研修:認知症の種類・特徴(22日) ユニットリーダー研修(29日)			
		こども園交流会(24日)			
	8 月	虐待・拘束予防委員研修:虐待予防指針・声かけ(5日) BCP研修・訓練:感染症発生時の初動対応			
	9 月	看取り・褥瘡予防委員研修:看取り指針・褥瘡発生メカニズム(6日) 外部研修報告会(14日) 施設見学研修(20日)			
		しゃぎり慰問(1日) 敬老会2ユニット単位で開催			
	10月	ユニットリーダー研修(21日) 感染症委員研修:インフルエンザの対応(28日)			
		こども園交流会(1日) バス旅行:白鳥動物園(7日)			
	11月	事故予防委員研修:事故検証(25日)			
		秋祭り(10日)			
	12月	認知症委員研修:種類別対応方法(11日)			
		こども園交流会(3日) もちつき(22日)			
	1 月	BCP研修・訓練:陽性者居室内の対応(21日) ユニットリーダー研修(27日)			
	2 月	虐待・拘束予防委員研修:虐待発生時の心理・不適切ケア(25日)			
		大鍋会(16日)			
	3 月	看取り・褥瘡予防委員研修:看取り期の変化・褥瘡基礎問題 外部研修報告会(21日)外部研修報告会(24日) ユニットリーダー研修(25日)			

(総評)年間を通して、稼働率は目標の98%に届かず、年間稼働率は94.6%であった。感染症発生時に入居までに時間がかかることや待機者に連絡するも早期入居希望の方がいないこともあり。空床発生が予想される時からの動きが常に迅速ではなかったため、入居に関しては常に動いておく必要があったが、その意識と職員への発信が不足していた。年度テーマの「利用者様と向き合う」については、会議や問題検討時に「利用者様にとってより良いのは」という問いかけを行うことにより職員の中にも考える時の視点が利用者様中心になってきた。またユニットケアについて、リーダー全員で学び、これまでの取組を振り返り、個々のイメージを統一。その上で、今の特養、今の自分達でできることを始めようという思いで、24時間シートを検討・作成し、3月に完成した。多職種にも周知し、運用を始める段階となった。接遇に関しては、今年度虐待疑いの案件が発生したり、職員の利用者様への言動や新入職職員の指導が、うまく行えず退職者が発生することもあり、早急な改善が必要な状況となった。発生した問題、今改善が必要であることを職員に伝え、接遇チェックリストを用いてセルフチェックを実施。職員間でも「変わらなければ」という意識は感じられ、実際に行動変容ができた職員もいた。一方、自分では気が付けない人、改善できない人もいるため3月より上長チェックも追加し、更なる改善につなげていく。職員育成の部分は、上手くできたケース、問題があったケースと両方あった。どこに問題があったのかを、当事者に伝え、次に同じことがないように指導を行っていた。人の部分は、介護はチーフが要となり通常業務は実施、栄養課もお互いに相談しつつ業務は行えている。ただ、人員不足で入浴回数が減少したり、ユニット業務とチーフ業務の両方行う必要があり、チーフに負荷がかかっている現状もあるため人員確保は今後も必要。相談課、看護課は核となる人がおらず、自分達で判断できなかったり、相談が上手くできず対応が遅くなることもあるため、多職種の人材育成も今後の課題である。